

文学館だより

令和 3 年 9 月 1 日
若山牧水記念文学館
TEL 0982 - 68 - 9511
文 責 日 高

新型コロナウイルス感染拡大が後を絶ちません。宮崎県独自の「緊急事態宣言」発令を受け、私ども文学館も8月13日(金)より閉館いたしております。
これに伴い、私どもの牧水顕彰事業も規模を縮小しての実施が続きます。
全国の皆さまへご案内できる日まで、もうしばらくお待ちください。
平穏な日常に戻ることをただただ祈るばかりです。

第71回 牧水祭 昨年同様、顕彰会役員ら少人数で行います

9月17日は、牧水先生の命日です。没後93年を迎えます。
第71回牧水祭は、昨年同様、日向若山牧水顕彰会役員ら少人数での実施を予定しています。

第71回 牧水祭

日 時 : 9月17日(金) 9:30 荒天の場合は18日(土)に順延
場 所 : 牧水生家横夫婦歌碑前
内 容 : 歌碑祭のみ

昭和26年に第1回牧水祭を開催して以来、1年たりとも欠かすことなく開催されてきている牧水祭。状況によっては、さらなる変更も予想されます。

顕彰会役員の手によって無事、開催されることを願います。
(右写真 昨年の牧水祭の一場面。那須会長あいさつ)



三浦家寄贈資料公開展 第2期のお知らせ

第2期は「繁と敏夫」と題し、主に牧水に関する資料を公開展示します。約40点に及ぶ資料を通して、改めて二人の絆を感じていただけたらと思います。

令和3年度企画展

繁と敏夫

— 交け掛かれた二人の絆 —

日向若山牧水顕彰会創立70周年記念

三浦敏夫 三浦繁夫

【第1期】 繁夫の遺したものと
令和3年4月11日～8月22日(終了)

【第2期】 繁と敏夫
9月5日～12月5日

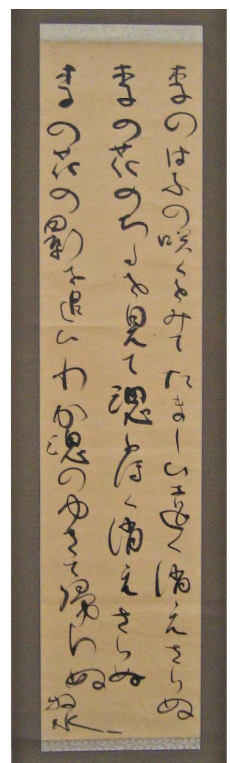
【第3期】 敏夫と吉志子
令和4年3月13日～5月29日

※状況により変更となる場合があります。

牧水直筆の短歌百首を綴った「百首歌抄」や未発表の牧水書簡など、16年の交流で育まれた二人の絆が遺した貴重な資料を公開。

この掛け軸の箱書きには敏夫の記録が残っています。
「大正十年五月 岡山市料亭亭備前屋において
揮毫せるものなり(略)
推ふに先生醉中即興の詠ならんか(略)」
実物に触れることの少ない一点かと思われ、機会がございましたら、どうぞお越しください。

李のはなの咲くをみてたましひ遠く消えさりぬ
李の花のちるを見て魂とほく消えさりぬ
李の花の影を追ひわか魂のゆきて帰らぬ
牧水



第11回 牧水・短歌甲子園 紙上審査にて終了

第11回 牧水・短歌甲子園は昨年同様、リモートによる紙上審査となりました。伊藤一彦先生は日向市の会場から、俵万智、大口玲子、笹公人審査員はそれぞれご自宅からの参加でした。2年連続の紙上審査となり、「会場で高校生たちに会いたい。」「ディベートを聞いたら、もしかしたら審査が逆転するかもしれない。」などの感想が先生方から聞かれました。

審査結果および講評
 ユーチューブにて配信中です。
 作品は日向市ホームページに掲載されております。



【学校対抗の部】

優勝	[東京都]	渋谷教育学園渋谷高等学校	・ ・ ・	出場回数 2 回目にして初優勝
準優勝	[宮崎県]	宮崎県立宮崎西高等学校	・ ・ ・	出場回数 9 回目 優勝 3 回、準優勝 4 回目
第 3 位	[宮崎県]	宮崎県立宮崎商業高等学校	・ ・ ・	出場回数 9 回目 優勝 1 回、準優勝 1 回
第 3 位	[埼玉県]	星野高等学校	・ ・ ・	初出場

【個人賞】

【若山牧水記念文学館長賞 / 館長 伊藤一彦】	福岡女学院高等学校	辻 愛生
雨粒が急に大きくなるように口から溢れ出てくる本音		
【俵万智賞】	宮崎県立宮崎大宮高等学校	平野 咲良
口癖の「たぶん」「かもね」が似らったな婉曲してる君が好き		かも
【大口玲子賞】	[山梨県] 甲府東高等学校	深澤 希実
選曲は三年前とおんなじで私のパート妹が吹く		
【笹公人賞】	[三重県] 高田高等学校	岸本 花梨
店頭に沈黙のまま列を成す選り抜かれた林檎ばかりが		
【日向若山牧水顕彰会長賞】	延岡学園尚学館高等部	灘 琴乃
昨日より二センチ髪を高く結い向かうは君の目の前の席		
【牧水・短歌甲子園実行委員会賞】	宮崎県立宮崎西高等学校	後藤 匠人
鶏を万で数える殺処分「死者九名」の見出しのとなり		
【牧水・短歌甲子園OBOG会「みなと」賞】	渋谷教育学園渋谷高等学校	嶋津 岳大
耳鳴りをきらんと最後まで聴けばきっと宇宙の端のひろがり		

お知らせ

速報 第11回 青の國若山牧水短歌大会の応募を締め切りました。昨年を超えるたくさんのお応募をいただきました。これから選歌に移ります。結果発表を楽しみにお待ちしております。表彰式は12月19日(日)を予定しています。

尾鈴短歌会 8月投稿(夕刊デイリー8月9日掲載)より抜粋

少なきも楽しく語る短歌会続けし吾のいたく老いたり	小野田	本多	茂雄
ささやかな尾鈴歌会牧水の歴史の町を守り続けむ	小野田	東村	吉市
ふれあいのグラウンドゴルフ枝庭にカラ振りのたび笑顔広がる	坪谷	岩下	富男
牧水は何を思っていて飲んだのか夏の夕暮れ鯛は鳴く	八重原	福畑	巳喜男
長崎の人に買われて行く子牛お嫁入りだと手綱を渡す	迫野内	黒木	金喜

牧水先生のふるさと東郷町の短歌会です。折々、紹介させていただこうと思います。

牧水先生の一首

折に触れて出会う一首を紹介しています

李のはなの咲くをみてたまひ遠く消え去りぬ
 李の花のちるを見て魂とほく消えさりぬ
 李の花の影を追ひわか魂のゆきて帰らぬ

三浦家寄贈資料公開展第2期のお知らせ(前ページ)で紹介した歌です。
 敏夫の箱書きには続きがあり、「(略)余此軸を一对所有せり 依而一軸を若山家に贈り一軸を我家に保存するものや 三浦敏夫 昭和17年6月」と毛筆で書かれています。
 貴重でおかつ三首書かれている珍しい書です。